

野菜畑作生産情報 第6号

平成28年9月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦は適期は種で越冬前の生育を確保しましょう！
◎台風や大雨に備え排水対策を徹底しましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ・ 草丈、主茎長は長く、風雨による倒伏が見られる。稔実莢数は平年並みとなっている。
- ・ ツメクサガ、ウコンノメイガなどの食葉性害虫の発生は少ない。県南地域の一部にべと病、ハダニの発生が見られる。

表-1 大豆の生育状況 (9月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (莢/本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年 (平年差・比)	5/25 (±0日)	6/ 1 (3日早)	7/28 (1日遅)	111.4 (109%)	62.3 (108%)	3.1 (100%)	41.8 (102%)
	平年	5/25	6/ 4	7/27	102.4	57.9	3.1	40.8
	前年	5/23	6/ 9	7/30	113.3	64.3	2.1	41.0
野菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	5/15 (1日早)	5/22 (4日早)	7/28 (1日遅)	113.8 (106%)	72.1 (109%)	4.1 (141%)	31.0 (95%)
	平年	5/16	5/26	7/27	107.4	66.1	2.9	32.7
	前年	5/15	5/25	7/27	108.7	64.0	5.0	28.8
五所川原 市 (旧金木町)	本年 (平年差・比)	6/ 6 (4日遅)	6/12 (1日遅)	8/ 2 (3日遅)	97.2 (100%)	-	-	35.3 (96%)
	平年	6/ 2	6/11	7/30	97.6	-	-	36.6
	前年	6/ 3	6/10	7/29	105.7	-	-	51.2
十和田市	本年 (平年差・比)	6/ 3 (3日早)	6/10 (4日早)	8/ 1 (3日早)	112.2 (117%)	-	-	41.7 (105%)
	平年	6/ 6	6/14	8/ 4	95.7	-	-	39.8
	前年	6/ 6	6/15	8/ 3	112.3	-	-	29.1

注) ①品種：おおすず。

②農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、五所川原市、十和田市は生育観測ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去9年間、野菜研究所が過去9年間、五所川原市が過去14年間、十和田市が過去15年間の平均値。

(2) 収穫等での留意点

- ・ 台風や大雨などではほ場に滞水しないよう、明きよなどによる排水対策を徹底する。
- ・ 汚粒の原因となる雑草や青立ち株は、収穫前に必ず抜き取る。
- ・ コンバイン収穫では、子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時が適期である。適期収穫に向け、コンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- ・ 湿害等により生育差がみられる場合は別刈りするなど、ほ場の状況を見きわめて収穫する。また、培土高のムラが大きいほ場や倒伏がみられるほ場では、土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

2 小 麦

- ・ 紅色雪腐病の防除のため、薬剤による種子消毒を行う。
- ・ 明きよや弾丸暗きよ、心土破碎などの排水対策を必ず実施する。
- ・ は種作業は9月25日頃までに終え、越冬前の生育量を確保する。

野 菜

1 ながいも

(1) 生育状況

- ・ 地上部、地下部とも平年を上回っている。
- ・ 病害虫は、葉渋病、炭疽病、ナガイモコガの発生が見られる。
- ・ 8月の大雨・強風により、一部で穴落ちやつる切れが見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (9月8日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	い も 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 (1日早)	6/26 (3日早)	406.1 (103%)	613.9 (133%)	67.5 (105%)	1,114 (120%)	67.0 (109%)
	平年	5/26	6/29	393.7	461.4	64.3	928	61.5
	前年	5/25	6/25	446.9	637.8	66.7	1,279	65.3
五 戸 町	本年 (平年比)	5/ 6 (8日早)	6/10 (7日早)	— (—)	— (—)	84.7 (110%)	1,094 (112%)	59.0 (94%)
	平年	5/14	6/17	—	—	76.8	974	63.0
	前年	5/ 1	6/ 8	—	—	89.0	1,177	58.0
東 北 町 野田頭	本年 (平年比)	5/12 (5日早)	5/30 (13日早)	— (—)	— (—)	67.3 (105%)	869 (120%)	53.1 (102%)
	平年	5/17	6/12	—	—	64.4	723	51.9
	前年	5/10	5/30	—	—	67.0	895	51.2

- 注) ①平 年：野菜研は平成19～27年の9か年の平均値。
五戸町は平成14～27年の14か年の平均値。
東北町は平成17～27年の11か年の平均値。
- ②種 子：野菜研は園試系6の2年子(100g)頂芽切除。
五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除。
東北町は庄司系の1年子(70～90g)頂芽付。
- ③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。
五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)。
東北町は畦幅110cm×株間23cm(3,952株/10a)。
- ④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

(2) 今後の留意点

- ・ 台風や大雨に備え、ネットや支柱の補強、明きよなどによる排水対策を徹底する。
- ・ 大雨等により植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。
- ・ ほ場巡回により、病害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ・ 種いもほ場では、ウイルス病株の抜取りや媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。

2 にんにく

- ・ 植付けは10月上旬までに行い、遅れないよう気象情報を参考に計画的に作業を進める。
- ・ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
- ・ 黒腐菌核病やチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウの防除のため、種子消毒は必ず実施する。
- ・ イモグサレセンチュウの被害は、強制乾燥終了後50日頃からりん片に現れ始めるので、発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認し、発生が懸念される場合は指導機関等の診断を受ける。また、被害種子は絶対に植付けしない。

3 秋冬だいこん

(1) 生育状況

- ・ 8月の大雨・強風の影響により、生育は平年を下回っている。
- ・ 病害虫はキスジノミハムシの発生が見られる。

表－3 秋冬だいこんの生育状況（9月12日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)
東 北 町 滝沢平	本年 (平年比)	8/ 9 (1日遅)	20.0 (65%)	11.0 (80%)	16.9 (25%)
	平年	8/ 8	30.7	13.7	67.9
	前年	8/ 9	30.3	14.4	36.3

注) ①平 年：平成13年～27年の15か年の平均値。

②品 種：夏の翼。

③栽植様式：畦幅60cm×株間22cm、1条植え（7,645株/10a）。

(2) 今後の留意点

- ・ 白さび病（わか症）、キスジノミハムシ、アブラムシ類、コナガなどの発生に注意し、早期に防除する。
- ・ 台風や大雨に備え、明きよなどによる排水対策を徹底する。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ・ 地上部は概ね平年並みであるが、地下部の生育は平年を下回っている。
- ・ 病害虫の発生は見られない。

表－4 秋にんじんの生育状況（9月9日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
平 川 市 大木平	本年 (平年比)	6/22 (2日遅)	55.1 (110%)	7.2 (94%)	14.4 (97%)	31.4 (89%)	56.9 (74%)
	平年	6/20	50.0	7.7	14.9	35.3	76.7
	前年	6/20	52.0	7.2	15.2	38.6	91.6

注) ①平 年：平成9年～27年の19か年の平均値。

②品 種：向陽2号。

③栽植様式：畦幅161cm×株間8.6cm、5条植え（36,112株/10a）。

(2) 今後の留意点

- ・ 黒葉枯病、ヨトウムシの発生に注意し、早期防除に努める。
- ・ 葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。
- ・ 台風や大雨に備え、明きょなどによる排水対策を徹底する。

5 夏秋トマト

(1) 生育状況

- ・ 4月下旬～5月上旬定植の作型では、9～10段果房の収穫期となっている。
- ・ 高温や日照不足による落花、小玉化、裂果等により出荷量が減少している。
- ・ 病害虫は、葉かび病、灰色かび病、アザミウマ類、コナジラミ類、タバコガ類などの発生が見られる。

表－5 トマトの生育状況（9月9日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	7段花房		9段花房		11段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 金木町	本年 (平年比)	5/ 1 (4日早)	7/15 (2日遅)	2.4 (86%)	8/ 3 (4日遅)	3.1 (107%)	8/15 (±0日)	1.8 (64%)
	平年	5/ 5	7/13	2.8	7/30	2.9	8/15	2.8
	前年	5/ 5	7/11	3.1	7/30	3.3	8/16	3.6
三戸町 斗 内	本年 (平年比)	5/22 (5日遅)	8/ 1 (11日遅)	2.3 (110%)	8/20 (9日遅)	2.3 (115%)	— (—)	— (—)
	平年	5/17	7/21	2.1	8/11	2.0	9/ 2	1.4
	前年	5/18	7/24	1.9	8/17	2.7	9/ 9	0.8

注) ①平年：五所川原市は平成16～27年までの12か年の平均値。

三戸町は平成20～27年の8か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：Bバリア）。

三戸町はりんか409（自根）。

③五所川原市の生育観測ほでは、6月下旬に5段花房の上で心止めし、直下の側枝に更新している。

④三戸町の生育観測ほでは、第1花房の着果節位が7.9枚で、過去3か年の平均より1.9枚多い。

(2) 今後の留意点

- ・ かん水は、土壌の乾湿が極端に変化しないよう生育を見ながら実施する。ただし、9月下旬以降は、過湿、多窒素で裂果が増えるので、かん水を控え、追肥は中止する。
- ・ 最低気温が16℃以下になったら、夜間はハウスを閉めて保温し、果実肥大や着色を促進する。
- ・ 日中は、ハウスを閉めきると内部の湿度が高まり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、換気と薬剤散布を徹底する。さらに着色始めとなった果房の下葉を2枚残して摘葉し、通気を確保する。
- ・ コナジラミ類等の病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。

◎日本一健康な土づくり強化月間（9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 高齢者の事故多発！農作業は、焦らず、急がず、慎重に！
- 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
- 3 機械点検時にはエンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
- 4 高所作業では、周囲の状況を確認し、身体の安定を保とう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5079
直通	017-734-9481
